**降誕前第５主日　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2023年11月26日**

**「お金では買えないもの」**

**イザヤ書55章1～3節**

**55:1 渇きを覚えている者は皆、水のところに来るがよい。銀を持たない者も来るがよい。穀物を求めて、食べよ。来て、銀を払うことなく穀物を求め／価を払うことなく、ぶどう酒と乳を得よ。**

 **55:2 なぜ、糧にならぬもののために銀を量って払い／飢えを満たさぬもののために労するのか。わたしに聞き従えば／良いものを食べることができる。あなたたちの魂はその豊かさを楽しむであろう。**

 **55:3 耳を傾けて聞き、わたしのもとに来るがよい。聞き従って、魂に命を得よ。わたしはあなたたちととこしえの契約を結ぶ。ダビデに約束した真実の慈しみのゆえに。**

**使徒言行録8章9節～25節**

**8:9 ところで、この町に以前からシモンという人がいて、魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。**

 **8:10 それで、小さな者から大きな者に至るまで皆、「この人こそ偉大なものといわれる神の力だ」と言って注目していた。**

 **8:11 人々が彼に注目したのは、長い間その魔術に心を奪われていたからである。**

 **8:12 しかし、フィリポが神の国とイエス・キリストの名について福音を告げ知らせるのを人々は信じ、男も女も洗礼を受けた。**

 **8:13 シモン自身も信じて洗礼を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらしいしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。**

 **8:14 エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。**

 **8:15 二人はサマリアに下って行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈った。**

 **8:16 人々は主イエスの名によって洗礼を受けていただけで、聖霊はまだだれの上にも降っていなかったからである。**

 **8:17 ペトロとヨハネが人々の上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。**

 **8:18 シモンは、使徒たちが手を置くことで、“霊”が与えられるのを見、金を持って来て、**

 **8:19 言った。「わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。」**

 **8:20 すると、ペトロは言った。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ。**

 **8:21 お前はこのことに何のかかわりもなければ、権利もない。お前の心が神の前に正しくないからだ。**

 **8:22 この悪事を悔い改め、主に祈れ。そのような心の思いでも、赦していただけるかもしれないからだ。**

 **8:23 お前は腹黒い者であり、悪の縄目に縛られていることが、わたしには分かっている。」**

 **8:24 シモンは答えた。「おっしゃったことが何一つわたしの身に起こらないように、主に祈ってください。」**

 **8:25 このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証しして語った後、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせて、エルサレムに帰って行った。**

**本日私たちに与えられた聖書の個所は、お金で買えないものを買おうとしてひどく叱責された人の話なのですが、この物語はお金で買えないものを買おうとすることはいけないことだというような教訓では終わらない、もっと奥深いものを私たちに示してくれているのです。共に御言葉に耳を傾けたいと思います。**

**ステファノの殉教をきっかけにキリスト教会誕生以来の大迫害が起こりました。多くの信徒たちはユダヤとサマリア地方に散らされました。散らされた人々はイエス・キリストの十字架と復活の福音を宣べ伝えながら巡り歩きました。そのようにして異邦人の地サマリアに福音が広がりました。そこにも神様の導きがあり、神様によって散らされた、それは言い換えれば遣わされた人たちが伝道に豊かに用いられたのです。**

**その中にフィリポがいました。フィリポはサマリアの町で福音を宣べ伝え、悪霊を追い出し、病気の人や障害を持ち苦しんでいる人々を助けました。そのためにサマリア人から大変に喜ばれました。**

**そのサマリアにシモンという人がいました。9節以下によりますと「魔術を使ってサマリアの人々を驚かせ、偉大な人物と自称していた。」とあります。ここでいう魔術とは恐らく星占いとか夢占いとかの占いの類ではないかと思いますが、この魔術師シモンは「偉大な人物と自称していた」とありますから自分で自分の事を偉大な人物と言っていたわけです。自分で自分の事を偉大な人物という人ほど大したことはありません。実際には大したことはない、虚栄の偉大な人物魔術師シモンだったのでしょうが、それでもサマリアの人たちは、これは「神の力だ」と言って、その魔術に心を奪われていたのです。そして、シモンのことをチヤホヤして褒め称えていたのです。**

**そのようなサマリアの町にフィリポがやって来てイエス・キリストの福音を伝えました。サマリアの人々はフィリポが語る福音を信じて洗礼を受けました。そしてシモンもまたフィリポが語る福音を信じて洗礼を受けたのです。**

**さらに、エルサレム教会から遣わされたペトロとヨハネがサマリアの町にやって来ました。彼らはフィリポから洗礼を受けたサマリアの人々に聖霊を受けるように祈りました。そして彼らが人々の上に手を置くと聖霊が降りました。**

**ここでついにシモンが本性を現します。彼はお金を持って来て「わたしが手を置けば、だれでも聖霊が受けられるように、わたしにもその力を授けてください。」とお願いしたのです。つまりシモンは人々に聖霊を授ける神の力をお金で買おうとしたのです。**

**そのようなシモンに対してペトロは非常に厳しい叱責の言葉を語ります。「この金は、お前と一緒に滅びてしまうがよい。神の賜物を金で手に入れられると思っているからだ・・・。」私たちが聖霊を授ける力は神から与えられた賜物にすぎない。神の賜物は神から一方的に与えられるだけで決してお金で買うことはできない。そんな神の賜物をお金で買えると思っているなどけしからん。お前は神の前に正しくない罪の縄目に縛られている。悔い改めて祈れ。お前のような思いでも神は赦して下さるかもしれないからだ。シモンは「おっしゃったことが何一つわたしの身に起こらないように、主に祈ってください。」とペトロに執り成しの祈りを求めましたが、結局は謝ってはいないわけです。**

　**この物語を読んで、「神様の賜物をお金で買おうとした魔術師シモンはけしからんやつだ」と思われる方が多いと思います。実際シモンがしたことは非常識極まりないことですし、ありえないことです。けれども、シモンが起こした行動の本質と言いますか、その根っこの部分を考えますと、私たちはただ単に「けしからん」と批判をするだけではいられない、決して他人ごとではない、私たち人間が誰しも持っている共通の思いというものに気づかされるのです。**

**魔術師シモン、先程申しましたように彼はサマリアの町で占いなどをして人々はその魔術に心を奪われていました。そのため人々から「偉大な神の力だ」と称賛されていました。それはさぞかし気持ちの良いものだったと思います。皆からちやほやされるわけですから、毎日気分良く過ごしていたでしょう。そんなある日フィリポがエルサレムからやってきました。今までシモンの魔術に心を奪われていた人々がフィリポの方に行ってしまいました。そうなるとシモンはどういう思いになるでしょうか。今まで自分に向いていた人々の称賛がフィリポの方に行ってしまうわけですから、面白くない気持ちはあったと思います。そこで、人々の称賛をなんとかして取り戻したいと願ってもおかしくありません。**

**13節には「シモン自身も信じて洗礼を受け、いつもフィリポにつき従い、すばらしいしるしと奇跡が行われるのを見て驚いていた。」とあります。ここは一見するとシモンがそれまでの生き方を悔い改めて謙虚にフィリポの弟子となって従っているというふうに読めます。しかし、シモンの関心はフィリポが行う「すばらしいしるしと奇跡」にあります。その「すばらしいしるしと奇跡」に大いに関心を持ち見て驚くのです。フィリポが語る福音には興味を示さずに、奇跡行為にばかり関心を示して驚く。それは、あわよくば自分もその力を手に入れたい、何とかしてその力を手に入れることができないかとチャンスをうかがっていたと考えることができます。それは「すばらしいしるしと奇跡」を行うことができたら、人々の称賛を取り戻すことができるからです。**

　**ペトロから聖霊を人々に授ける力をお金で買おうとしたのもその延長線上の出来事です。シモンは純粋に人々に聖霊を授けてイエス様が救い主だと信じる人がさらに増えて欲しいという思いからお金を積んだのではありません。神様の賜物をお金で買ってこの力があれば間違いなく人々の称賛を取り戻すことができると考えたからです。ですから、シモンにとっては聖霊を授ける神の力というのは、人々の称賛を取り戻すための一つの手段でしかないのです。シモンが高いお金を払ってでもどうしても欲しかったのは神の力ではない、人々の称賛です。もう一度ちやほやされたい、褒められたい、注目されたい、認められたい、そのような欲求がシモンをあのような行動に駆り立てたのです。つまり、シモンは自らの欲求を満たしたいがために神の力を、さらに言えば神様を利用しようとしたのです。それは、シモンが神様よりも上になってしまっているのです。そう、このシモンの問題の本質というのは人が神様よりも上になっているという問題なのです。**

**「いえ私は常に謙遜に神様を礼拝しているから、神様よりも上になることはない」と私たちは言い切れないと思います。例えば、私たちが聖書を読んで心に残る言葉があると思います。それを自分なりに解釈して、心の棚に入れておきます。そして誰かと会話をする時にその人が間違った行動をしているなと思ったら、その聖書の言葉を自分の都合の良いように解釈をして、その言葉を引用して相手を批判することがあります。それは、自分は正しいことを言っているつもりかもしれませんが、聖書の言葉、神の言葉を自分の都合の良いように利用して相手を裁くというのは、自分が神様よりも上になって相手を裁くことと同じです。聖書というのは前後の文脈の中で読まれないといけないものですから、その言葉だけを取り出して人を裁くというのはしてはいけないことです。そんな知識を誇り神様よりも上になることよりも、その人のために祈ることが大切です。**

**「おっしゃったことが何一つわたしの身に起こらないように、主に祈ってください。」と明らかに神様の前に間違ったことをしたシモンのためにペトロは厳しく叱責をするだけでなく、シモンのために執り成しの祈りをしたでしょう。イエス様の十字架の死と復活の福音を本当の意味で信じて受け入れて、そのイエス様に立ち帰ることができるように祈ったと思います。それはかつてのペトロがイエス様のことがわからずにイエス様を裏切ってしまう、そんなペトロのために「わたしはあなたのために信仰がなくならないように祈った」と言って下さったイエス様のように、シモンのために、シモンの信仰がなくならないように祈ったのではないかと思います。裏切ってしまった自らの弱さをよく知るペトロだからこそ。**

**私たちは弱く罪深い人間です。神様の前に謙遜でありたいと願いながらも、知らず知らずに神様よりも自分の方が上になってしまうのです。ともすれば神様を自分の欲求を満たしたいがために利用してしまうのです。そんな私たちのために十字架に掛かって下さり、死んでくださり、復活をされたイエス様の愛、その愛に生かされて今の私がいるというのは何ものにも変えがたい大きな恵みです。決してお金では買えないイエス様の大きな愛によって生かされていることに感謝をして信仰の歩みを進めていきましょう。**